

絹の音と和の声で描く平家物語の名場面  
〈全曲オリジナルCD〉

# 『諸行無常』

〜琵琶で語る平家物語〜

坂田美子

このCDの制作にあたって、  
氏田章子さんからの多大なるご支援と励ましをいただきました。  
琵琶の音が減んでしまわないようにという氏田さんの思いに背中を押され、  
精一杯の思いを込めて演奏致しました。

このCDの売上金は今後の琵琶普及のために使わせていただきます。  
一人でも多くの方にこの活動にご賛同いただけましたら幸いです。



諸行無常

〜琵琶で語る平家物語〜

坂田美子

nemu-2025  
定価 ¥2,500 (税抜)

坂田美子ホームページ  
<https://yoshiko.kmlw.net/>



【収録内容】

■ 祇園精舎（巻二）

詞 祇園精舎原文より／曲 坂田美子

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり」で始まる平家物語冒頭の名文。

■ ひよどり越え（巻九）

詞 坂田美子／曲 坂田美子

「鹿の通れる道ならば、馬の通れぬはずはなし」と、敵陣の背後から切り立つ断崖を一気に駆け下りた源義経。この奇襲により平家方は総崩れとなる。

■ 横笛（巻十）

詞 栃木孝惟／曲 坂田美子／手付 坂田梁山

横笛という名の美しい娘を愛した齊藤滝口時頼は、その愛を押しとどめる父との板挟みに苦しみ出家する。ある春の夜、滝口会いたさにさまよい出た横笛は滝口の僧坊を探し当てるが、遂に会う事はかなわなかった。美しい歌詞と琵琶、尺八の音色が相まって描かれる悲恋の物語。

■ 知章最期（巻九）

詞 知章最期原文／曲 坂田美子

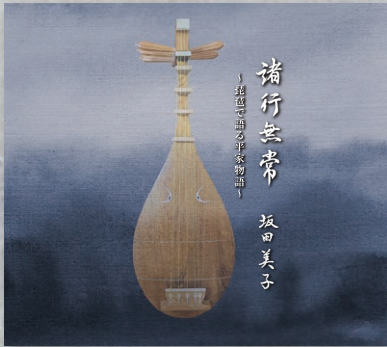
平知盛の息子知章は、親を助けんと敵と戦い殺される。そんな息子を見殺しにして逃げ延びてしまった知盛。親としての知盛の慚愧の思いが切々と語られる一節。

『 諸行無常 』

（琵琶で語る平家物語）

坂田美子

CD『諸行無常』



nemu-2025

定価 ¥2,500 (税抜)

ご購入申し込みは  
こちら



<http://kmlw.xsrv.jp/nemu-shop/>

E-mail [biwauta@mtd.biglobe.ne.jp](mailto:biwauta@mtd.biglobe.ne.jp)

FAX 04-7185-0836

坂田美子（琵琶・語り・作詞・作曲）



中学より10年間、琵琶を半田淳子に師事。以後、観世流謡曲を浅見重好に、講談を神田松鯉に学ぶ。語りと器楽の両面を併せ持つ琵琶音楽の可能性に魅かれ、古典曲、現代曲に拘らない幅広い演奏活動を国内外で展開している。琵琶弾き語りの為の創作曲多数。近年は語り手としての起用も増え、富田勲作曲「源氏物語幻想交響絵巻」では、琵琶演奏の他に現代京ことばによる語り部役も担当し、完全版としてCD化される。平家物語原文朗読の「声」を出して楽しむ平家物語講座」を大人の休日倶楽部他で開催中。